

## ものづくりの精神を未来につなぐ ロボット相撲大会



ロボット相撲大会は、「ものづくりを担う若い人たちに夢を与えたい、ものづくりの楽しさを知ってもらいたい」という想いから富士ソフトの創業者である野澤 宏の発案で始まりました。この大会は、ロボティクスを学ぶ最高の教材として世界30カ国以上の大学や教育機関などで高く評価され、全世界で延べ8万名の方々が取り組まれております。

2022年度はコロナの状況を鑑みて安全対策を施したうえで、3年ぶりに両国・国技館にて全日本ロボット相撲大会を開催することができました。全国から多くの選手に参加いただき、熱気あふれる大会となりました。また、ロボット相撲の新たな取り組みとして、「500gクラス」のプレ大会を開催いたしました。「500gクラス」は手軽にロボット相撲を始めることが

できますので、今後、より多くの皆様の参加を期待しております。

世界では、労働力不足の解消、生産性の向上のため、また、DX(デジタルトランスフォーメーション)の流れとともにロボット産業は加速度的な成長が見込まれており、ロボティクス教育の重要性がますます高まっております。当社の社会貢献活動の柱として、ロボット相撲大会を通じたものづくり人財の育成に貢献してまいります。

今後ともロボット相撲大会をよろしく願いいたします。

全日本ロボット相撲大会 大会委員長  
坂下 智保

### 全日本ロボット相撲大会のあゆみ

1990	会社創立20周年を記念して、国技の「相撲」と先進技術の「ロボット」を組み合わせ、日本のものづくりに貢献することを目指した第1回ロボット相撲大会を開催
1992	両国国技館で開催
1993	高校生の部が設けられ、地区大会がスタート この年から文部省(現文部科学省)が後援
1998	第10回記念大会で優勝した選手を海外遠征に招待 海外遠征は2001年まで計4回行われ、世界各国にロボット相撲が広がるきっかけとなる
2005	ロボット相撲から誕生した団体競技「第1回高校生ロボットアメリカンフットボール全国大会」を開催 ロボットアメリカンフットボールは、ロボット同士がぶつかり合いながら一つのボールを奪い合う団体競技(2019年2月に第14回大会を開催)
2008	高校生の部と全日本の部で優勝した実績が評価され、三重県立四日市中央工業高等学校が「第3回ものづくり日本大賞」の青少年部門で「内閣総理大臣賞」を受賞
2014	第1回世界大会「INTERNATIONAL ROBOT SUMO TOURNAMENT 2014」を開催 世界9カ国41台のロボットが参戦
2018	第30回大会から、全日本大会と世界大会を統合し、「全日本ロボット相撲大会2018(All Japan Robot Sumo Tournament 2018 Grand Final)」を2日間にわたり開催
2019	「全日本ロボット相撲大会2019」(All Japan Robot Sumo Tournament 2019)には、国内19カ所の予選を勝ち上がった84台と海外31カ国60カ所の大会を勝ち抜いた24カ国の107台が出場。合計191台が両国国技館に集結し、世界一の横綱を目指し対戦
2020-2021	新型コロナウイルスにより中止
2022	感染対策を実施し、両国国技館で再開



1998年 初の海外遠征



ロボットアメリカンフットボール試合の様相



2019大会の自立型対戦の様相

## 3年ぶりに相撲の聖地、両国国技館に 日本一の横綱を目指すロボット力士が集結!



### 全日本ロボット相撲大会2022

2022年12月、コロナ禍で中止が続いていた“全日本ロボット相撲大会”が3年ぶりに開催することができました。18都道府県から横綱を目指すロボット力士186台が、相撲の聖地である両国国技館に集結。12月10日(土)に予選会、11日(日)に決勝大会が行われ、選手たちは、「ロボット相撲大会 エンジニア精神5箇条」に則り、正々堂々と技術を競い合いました。



3kg 競技の様子

### 500gクラス(プレ大会)

手軽にロボット相撲を楽しめる、500gクラスのプレ大会も開催し、28台のロボット力士が技術を競いました。



500gクラス競技の様子

### 高校生ロボット相撲全国大会2022への協賛

当社は、公益社団法人 全国工業高等学校長協会主催の「高校生ロボット相撲全国大会」に協賛し、運営支援をしています。

2022年11月26日(土)、ビッグパレットふくしま(福島県郡山市)で開催され、全国23都道府県214台より選抜された64台のロボットが“高校生横綱”を目指して熱戦を繰り広げました。優勝者には文部科学大臣賞、技術的に優れたロボットには経済産業大臣賞が授与されました。



### ロボット相撲大会とは?

自作したロボット力士を技術とアイデアで戦わせる競技。自立型とラジコン型の2部門に分かれ、それぞれ横綱を目指して戦います。当社が社会貢献活動の一環として、1989年から主催している歴史ある競技大会です。

### ルール

2台のロボット力士を土俵上に置いて互いに押し合い、ロボット力士の一部が相手より先に土俵外の地面に着いたら負け。試合時間は3分間、2本先取したロボット力士が勝ち!



ロボットの規格

### ロボット相撲大会 エンジニア精神5箇条

- 常に安全に努め、フェアプレー精神で試合に臨もう。  
(安全第一、フェアプレー精神)
- 全ての参加者とその関係者仲間を敬い、思いやる気持ちを持とう。  
(豊かな心)
- 創意工夫と技術向上に挑戦しよう。  
(技術への挑戦)
- 大会を交流の場として仲間作りに努めよう。  
(人と人とのコミュニケーション)
- 次代を担う後輩たちに夢と希望を与えよう。  
(技術の伝承)



全日本ロボット相撲大会2019

## 被災地支援と社会貢献活動

東日本大震災以降、社内に「社会貢献室」を設置し、特定非営利活動法人「IT工房ひのき」主催によるボランティア活動を、被災地・過疎地域の地方自治体や地域団体と連携して展開しています。被災地の復旧だけでなく、復興や地域創生を目指し、長期にわたり地域が必要としている活動を実施。活動に際し当社の製品などを利用することでICT技術を身近に感じていただいております。また、近年多発する自然災害におきましても、これまで培ってきた被災地支援の経験を活かして継続的に支援を行っています。2020年度からの新型コロナウイルスの影響により、社員が現地で直接活動できないため、リモートや生産者支援などの間接的な被災地支援に切り替えて、活動を継続しています。

### 岩手県大船渡市から感謝状を授与

2022年10月13日(木)、大船渡市市制施行70周年記念式典において、当社の10年以上の復興支援が評価され、大船渡市から感謝状を授与されました。

当社は東日本大震災以降、大船渡市をはじめとする岩手県沿岸エリアの被災地で復興支援やボランティア活動を継続しています。また、2015年に総務省の「ふるさとテレワーク推進のための地域実証事業」に採択され、大船渡市に大船渡テレワークセンターを開所して震災被害後の地方創生に貢献してきたことが、今回の感謝状の授与につながりました。



大船渡市からの感謝状

### 特定非営利活動法人「IT工房ひのき」について

自然災害における被災地の住民および被災地の各種団体に対して、ITを活用した各種復興支援に関する事業を行い、被災地住民の生活再建ならびに被災地の経済復興に寄与することを目的に設立しています。

### 2022年度の活動

- 被災地の生産者支援として物産品の購入(岩手県三陸沿岸、熊本県熊本市植木)

## その他の社会貢献活動

### 「ロボットプログラミング選手権2022(病弱教育部門)全国大会」への協力

全国特別支援学校病弱教育校長会様主催の「ロボットプログラミング選手権2022(病弱教育部門)全国大会」が2月1日(水)、千葉県立仁戸名特別支援学校にてオンライン開催され、当社は機材および技術賞審査に協力しました。

「ロボットプログラミング選手権(病弱教育部門)全国大会」は2018年より、当社のプログラミング教材ロボット「プロロ」を使用し、事前に作成したプログラムを送付することで当初からオンライン開催されています。完全リモートで実施することで、普段は交流が難しい、全国の病弱療養中の児童が、大会を通じて時間と場所を共有し、学び楽しさ、人とのつながりを得ることで、達成感やそこから得られる自己有用感を味わい、自己の可能性を体感させることを目的としています。



Zoomにて各学校へ配信

### 企業献血の取り組み

2022年8月から2023年2月の期間を、富士ソフト献血キャンペーンとして、全国の日本赤十字社の献血ルームおよび献血バスなどを利用し、当社社員延べ250名が献血に協力しました。例年、オフィス内に献血ルームを設置し献血に協力しておりましたが、コロナ禍に伴う取り組みとして実施いたしました。

### 募金活動(ユニセフ)への協力

年末に行われるユニセフ「ハンド・イン・ハンド募金」活動(オンラインにて実施)に際し、当社のコミュニケーションロボット「パルロ」による募金の呼びかけ動画を作成し提供いたしました。

### 災害備蓄品の寄付

フードロスの観点から保管期限が近い災害用備蓄品をフードバンク事業者を通じて継続的に寄付しています。

### 地域清掃活動

千代田区一斉清掃の日に賛同し、年2回(6月、11月)の開催日に合わせて社員が秋葉原ビル周辺の清掃活動を継続的に実施しています。2023年から新名古屋ビルでも定期的な地域清掃活動を開始しています。

## 特例子会社「富士ソフト企画株式会社」による障がい者の活躍と社会貢献

当社の特例子会社である「富士ソフト企画」は、障がい者一人ひとりの個性を尊重し、仕事を通じて学び成長し、仕事を通じて社会に貢献し、「生働働ける会社」を目指しています。

### 富士ソフト企画の3名が「第42回全国アビリンピック」にて入賞

2022年11月4日(金)から6日(日)、障がいのある方々が日頃培った技能を競い合う「第42回全国障害者技能競技大会(アビリンピック※)：(独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構主催)」が、千葉県の幕張メッセで開催されました。新型コロナウイルス感染防止のため、無観客・ライブ配信のなか、全25種目の競技に362人が参加し、富士ソフト企画(株)から5競技6名が参加し、以下の部門3名が入賞しました。

【金賞】パソコン組立部門 【銅賞】表計算部門 【銅賞】ホームページ部門

※アビリンピックとは、アビリティ(Ability「能力」)とオリンピック(Olympics)を合わせた造語です。この大会は、障がいのある方々の職業能力の向上を図り、企業や一般の方が障がい者への理解と認識を深めて、その雇用の促進を図ることを目的に、昭和47年から開催しています。



パソコン組立部門金賞：館野さん

### 「福島県きのこと品評会」の2部門で受賞

2022年10月21日(金)、(公社)福島県森林・林業・緑化協会が主催する「福島県きのこと品評会」に出品し、「生しいたけ 菌床栽培部門」にて会長賞、乾燥しいたけ部門では理事長賞を受賞いたしました。

本品評会は、震災復興と福島県産きのこの振興を図るために開催され、品質・形状・荷姿などについて総合的な審査が行われています。



受賞した生しいたけ(左)乾燥しいたけ(右)

### 福島県内で初めて「ノウフクJAS認証事業者」に認証

2022年12月13日(火)、富士ソフト企画(株)「会津営業所」(福島県耶麻郡西会津町)は、日本農林規格の「障害者が生産行程に携わった食品」の日本農林規格技術基準に適合したため、「ノウフクJAS※認証事業者」として認証を受けました。

富士ソフト企画(株)「会津営業所」は、しいたけ栽培を通じてこれまで先人が培ってきた栽培ノウハウ継承とデータ化などを行いながら、障がい者の職域拡大と障害者雇用の促進に取り組んでいます。

※ノウフクJASとは、2019年に制定された日本農林規格で正式名称は、「障害者が生産行程に携わった食品の日本規格(平成31年3月29日農林水産省告示第594号)」といいます。この規格は、障がい者が農林水産業における生産行程に携わった生鮮食品およびこれらを原材料の生産方法および表示の基準を規格化しています。



ノウフクJASの認証書

### 「かながわSDGsパートナー」に認定

2022年5月26日(木)、神奈川県から「かながわSDGsパートナー※」に認定されました。SDGsのコンセプトに共感し、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向け、障がい者雇用の促進に取り組んでいます。

※かながわSDGsパートナーとは、SDGs推進に資する事業を展開している県内企業等が県に応募し、県がSDGs推進の目的・取組内容等を審査のうえ「かながわSDGsパートナー」として登録して(登録期間は2年間・更新可)、セミナーなど様々な機会や媒体を通じて登録企業等と県が連携してSDGsの推進をPRする制度です。



神奈川県から授与された登録証

### 富士ソフト企画が「障害者雇用優良事業所等表彰※」を2部門で受賞

2022年9月13日(火)、独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構より「職場改善好事例普及に係る入賞事業所」で優秀賞、「障害者雇用支援月間における絵画・写真コンテスト」で奨励賞を受賞しました。

※障害者雇用優良事業所等表彰とは、障がい者を積極的に多数雇用している事業所、障がい者の雇用の促進と職業の安定に著しく貢献した団体または個人、および模範的職業人として長期勤務する障がい者に対して、その努力と功績を称え、これを広く社会一般に周知することにより、障がい者の雇用の促進と職業の安定に資することを目的としています。



神奈川県から授与された登録証